

2019年6月 キューバ医療事情

下記情報は当地報道を抄訳したものです。詳しくは原文をご参照下さい。

【キューバ医療事情】

6月2日【14 y medio.com】

“チェルノブイリの50人の子供達がキューバで治療を受ける予定”

1986年4月26日当時ソ連のプリピャット市にあったチェルノブイリ原発事故により、ウクライナやベラルーシ、ロシアといった広大な範囲が放射線汚染され、何十万人もの人々が被爆した。キューバ政府は、1990年代チェルノブイリの子供達への治療プログラムを開始して以来、2万6千人以上の放射線被曝による病気で苦しんだ被災者に対して無料でハバナの病院で治療を行った。大多数の患者はウクライナからであったが、ロシアやベラルーシからの患者もいた。この人道的プログラムはハバナから東に30km離れたタララ・ビーチに本部が置かれ、1次レベルの医療サービスと学校、レクリエーション施設が患者のために設置されていた。最初の5年間、このプロジェクトは主に10歳～14歳を対象に毎年1000人以上の子供に対して検査やリハビリテーション、手術や精神的なサポートを行った。最近、ウクライナ代表団がハバナ訪問中にキューバ保健省とウクライナの子供達がキューバでの治療とリハビリを再開する覚書に署名したとキューバの通信社が報じた。この子供たちは当時被災した人々の子供である。日程は未定だが、ウクライナの子供達の第1陣は、皮膚疾患や癌の特別な治療をキューバで受ける予定。第2陣は脳性麻痺のような疾患を持つグループとなる。

6月6日【Diario de Cuba】

“キューバ政府、レソトにより多くの医師を派遣”

キューバ政府はアフリカ諸国に対するキューバの医療の一環として、現在レソトで働いている4人の医師に加えて、今後数週間で33人の医師を派遣する。

レソト王国保健大臣と在レソトキューバ大使は首都マセルで医療分野における両国協力協定に署名したことを発表した。新たに派遣される医師は、家庭医や歯科医が予定されている。

6月7日【CUBADEBATE】

“キューバ人医師は、ボリビアで数千人のブラジル人を治療”

ブラジルのグラハラ・ミリムからマモレ川を越えるとボリビアのグアヤラメリンという町に着く。ここには2006年以降キューバ人眼科医達がキューバ・ボリビア眼科センターという拠点を置き、「奇跡のプログラム」の任務で白内障や翼状片の治療を行っている。ブラジ

ルでは高価な手術をグアヤラメリンへの旅行で手術を受けることができ、視力を回復した数千人のブラジル人は、キューバ人眼科医に感謝をしている。「毎日 100 人の患者を診ており、多くはブラジルからの患者で、それ以外はボリビアの様々な所から来ている。」とキューバ人眼科医は述べた。58 万 4 千人のボリビア人、6 万 1 千人のブラジル人、4 万 6 千人のアルゼンチン人、2 万 5 千人のペルー人、314 人のパラグアイ人が「奇跡のプログラム」により恩恵を受けた。

6 月 7 日 【14 y medio】

“アフリカマイマイはキューバの 12 県に広がっている”

カマグエイ市トオレ・ブランカ地区のパルミラ、カジェホン・デル・レオン、サン・カエタノ通りでアフリカマイマイが確認された。600 戸の住宅を調査したところ、300 匹以上のアフリカマイマイが見つかった。カマグエイ県におけるアフリカマイマイの出現で、この危険な生物の存在する県の数も 12 県に増えた。今のところアフリカマイマイの存在が確認されていないのはピナル・デル・リオ県、シエンフエゴス県、グアンタナモ県のみ。

6 月 7 日 【CUBADEBATE】

“キューバ初、覚醒している患者に脳マッピング手術を施行”

脳神経・脳外科研究所 (INN) で覚醒した患者に対してキューバで初めて言語の脳マッピング手術が行われた。これにより活動領域に影響を与えず脳腫瘍を切除することが可能になった。

6 月 17 日 【CIBERCUBA】

“ブラジル北東部の知事はキューバ人医師に戻ってきてもらいたい”

ブラジルの知事グループは、「Más Médicos」プログラムに参加していたキューバ人医師達を戻すために政治的、法的手段として Northeast Consortium を使う予定である。彼らはブラジル北東部の州の医療システムにもう一度「Más Médicos」プログラムを再開させるために、キューバから医療専門家を連れてくることの可能性を調べるために汎米州保健機構 (PAHO) に接触をした。ボルサナーロが大統領選挙でキューバ政府は医師を奴隷として扱っていると声明をだした後、キューバ人医師はキューバに戻ってしまった。これにより最も影響があったのはセアラ州である。

6 月 17 日 【Juventud rebelde】

“兄弟達のより良い生活のためのキューバ”

11 年間の連帯プログラムによって、Heberprot-P を持つキューバ人医師は 21 万 3 千人を超えるベネズエラの糖尿病患者の健康と生活を維持してきた。国立技術コーディネーターは、キューバから 14 人の血管専門医と 20 人の健康プロモーターで構成されており、ベネズエ

ラの 22 州、69 の市町村で、直接援助を行うだけでなく、ベネズエラ人医療専門家に Heberprot-P 投与の助言やトレーニングを行っている。従来の治療を受けた患者の 40%~60% の患者が下肢の切断術を施行されたが、Heberprot-P の投与を受けた 21 万 3 千人を越える患者は、ほぼ切断することなく治癒している。ことし Heberprot-P の投与を受けた 7498 例のうち下肢を切断したのは 2 例のみであった。ベネズエラでは糖尿病が死因の第 5 位であり、下肢切断後の平均寿命は 5 年と言われている。

6 月 21 日 【CIBERCUBA】

“キューバ初、2 歳の小児のてんかん手術を CIREN で施行”

国際神経回復センター (CIREN) で、キューバ初の 2 歳の小児のてんかん手術が行われた。患者は合併症なく、順調に回復した。

6 月 22 日 【CIBERCUBA】

“カマグエイで癌に対する新たな治療法”

カマグエイのマダメ・クリエ腫瘍病院ではドイツ製のハイテク機器の導入により癌に対して、新たな 2 つの治療法を開始した。高線量率小線源治療と表面放射線治療は、カマグエイ県、シエゴ・デ・アピラ県、ラス・トゥナス県の患者に対して現在、センターの放射線治療サービスの一環で受けられる。高線量率小線源治療は、子宮や直腸、肺、前立腺や乳房の腫瘍に対して用いられる。この方法は健康な組織への曝露を減らすことにより合併症が減る。1980 年代、カマグエイは婦人科腫瘍に対して高線量率小線源治療を初めて行った地で、2011 年の中断まで行っていた。以後、患者はハバナとサンティアゴ・デ・クーバに行かなくてはならなかった。皮膚に対する表面放射線治療機器は今月稼働し始めた。これらの新しい治療法は現在、ハバナとサンティアゴ・デ・クーバとカマグエイだけが行える。

6 月 25 日 【Diario de Cuba】

“ジャマイカは 300 人のキューバ人医療専門家を受け入れる”

現代の奴隷制度や人身売買と非難されている中、キューバ政府は医療専門家の海外派遣に重きを置き、派遣を継続している。今回、キューバ当局と協定交渉をするために 6 月 5 日から 14 日までジャマイカの厚生省から 12 人の役人がキューバを訪れた。彼らはキューバ中から来た候補者と面接を行った。ジャマイカ政府は合計で 212 人の看護師、108 人の医師、24 人の技師を受け入れることを確認した。ジャマイカ当局は、連日過密状態にある外来部門を持つ病院への負担を軽減するために地域社会のプライマリーケアを強化しようとしている。そのため多くのキューバ人医師は、ジャマイカでプライマリーケア部門で働く予定。採用された医師の 80%以上が、最近プログラムを中止されたブラジルを含む、ベネズエラ、南ア、カリブ海諸国を含む国際的な医療ミッションを既に経験している。